

# 経済・金融 フラッシュ

## 【東南アジア経済】

# ASEANの貿易統計(10月号)

～輸出は電気電子製品が鈍化して一桁成長まで低下

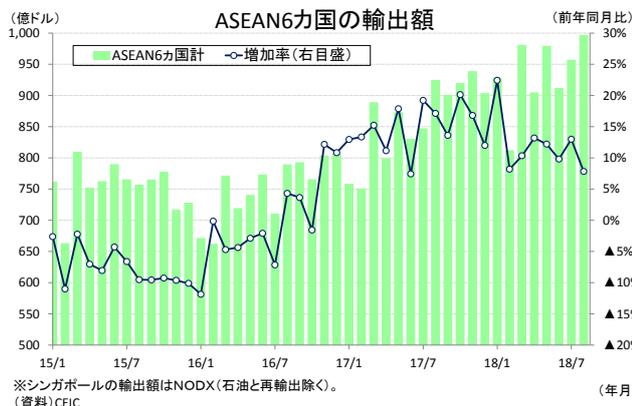
経済研究部 准主任研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

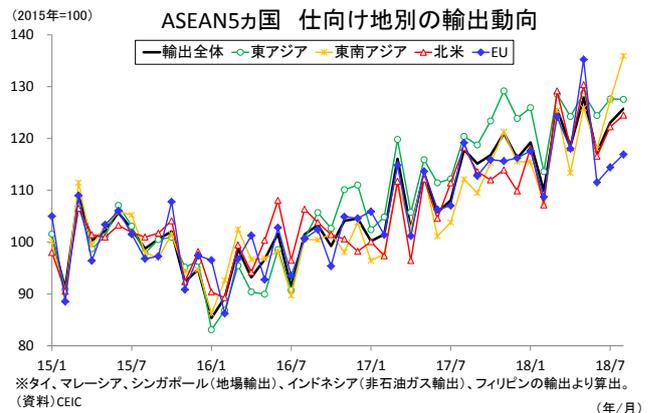
18年8月のASEAN主要6カ国の輸出（ドル建て通関ベース）は前年同月比7.8%増となり、前月（同13.0%増）から低下した（図表1）。輸出は海外経済の持続的拡大や一次産品の価格上昇が全体を押し上げて堅調に推移しているが、スマートフォン需要の減速などから昨年と比べて増勢が鈍化してきている。米国発の貿易摩擦の影響はまだ表面化していないが、輸出の減速傾向が今後強まる恐れがある。

ASEAN5カ国の仕向け地別の輸出動向を見ると、8月は東アジア向け（同5.9%増）と北米向け（同5.3%増）が鈍化、EU向け（同1.9%減）が昨年4月ぶりのマイナスとなった（図表2）。一方、東南アジア向け（同21.2%増）は好調に推移して、明暗の分かれる結果となった。

（図表1）



（図表2）

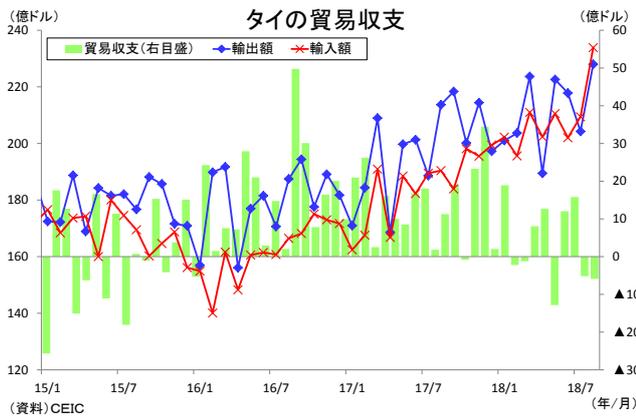


タイの18年8月の輸出額は前年同月比6.7%増（前月：同8.3%増）と低下した。輸出の基調は、海外経済の回復を背景に自動車・部品や石油製品などの主要工業製品を中心に堅調に拡大しているが、電子機器と家電製品などは昨年ほどの勢いがなく、輸出の増勢は緩やかに鈍化している。一方、輸入額は前年同月比22.8%増（前月：同10.5%増）と大きく上昇した結果、貿易収支は5.9億ドルの赤字となり、前月から0.7億ドル悪化した（図表3）。

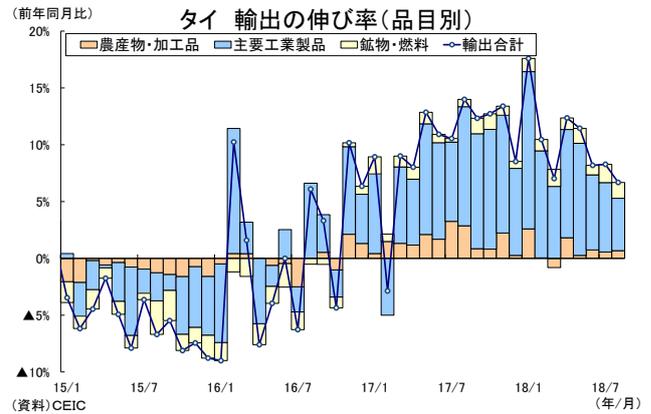
輸出を品目別に見ると、全体の約8割を占める主要工業製品は同5.8%増（前月：同7.7%増）と低下した（図表4）。工業製品の内訳を見ると、石油化学製品（同18.7%増）や自動車・部品（同16.4%増）、機械・装置（同13.6%増）など総じて好調だったが、主力の電子機器（同5.3%増）が鈍化したほか、家電製品（同1.2%減）も低調だった。また鉱業・燃料は同39.4%増（前月：同45.5%増）と、石油製品を中心に13ヵ月連続の二桁増となった。農産品・加工品は同4.1%増（前

月：同3.2%増）と上昇した。コメ（同9.1%増）とゴム製品（同5.3%増）が堅調に拡大する一方、天然ゴム（同19.4%減）が低迷した。

（図表 3）



（図表 4）

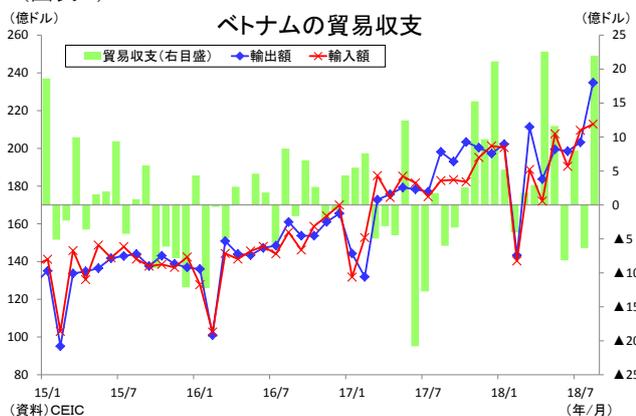


ベトナムの18年8月の輸出額は前年同月比18.5%増と、前月の同14.8%増から上昇した。輸出の伸び率は、年前半に冬季五輪およびサッカーワールドカップの開催、新型スマートフォン発売のタイミングが去年より早まった影響により、テレビやスマートフォンなどの電気電子製品を中心に上下に振れる展開となったが、足元では再び増勢が加速してきている。一方、輸入額は前年同月比16.4%増（前月：同20.0%増）と鈍化した結果、貿易収支は前月の22.0億ドルの黒字となり、前月から28.3億ドル増加した（図表5）。

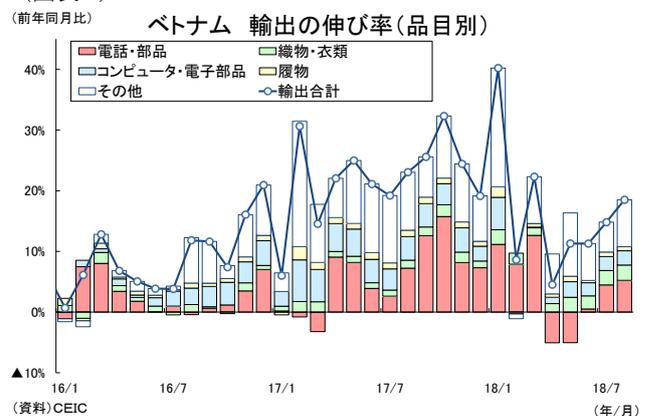
輸出を品目別に見ると、まず輸出全体の約2割を占める電話・部品が同25.1%増（前月：同25.9%減）となり、新型スマートフォンの発売が昨年より早まった影響により二ヵ月連続で大幅に増加した。またコンピュータ・電子部品は同19.1%増（前月：同19.6%増）と引き続き好調だった。アパレル関連では、織物・衣類が同18.8%増（前月：同17.1%増）、履物が同10.6%増（前月：同10.1%増）と、それぞれ二桁増となった。農産品では、カシューナッツ（同21.2%減）が低迷する一方、前月に落ち込んだコメ（同5.6%増）と野菜（同13.0%増）がプラスに転化し、コーヒー（同25.4%増）も大きく上昇した。

輸出を資本別に見ると、全体の7割を占める外資系企業が同20.0%増（前月：同16.8%増）、地場企業が同15.0%増（前月：同10.4%増）と、それぞれ上昇した。

（図表 5）

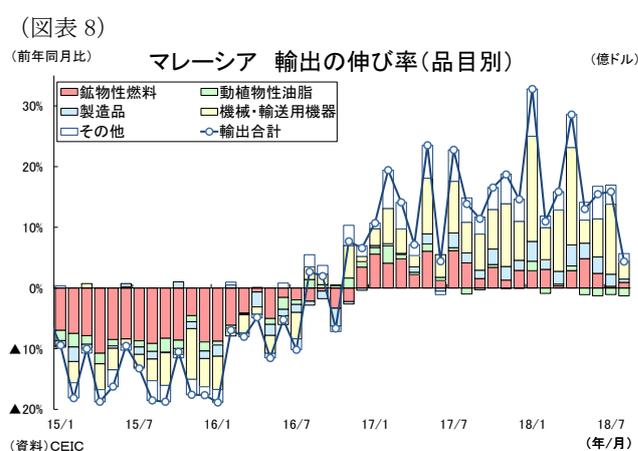
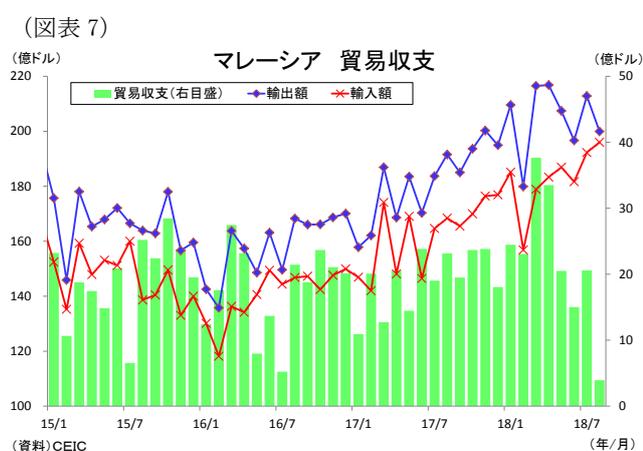


（図表 6）



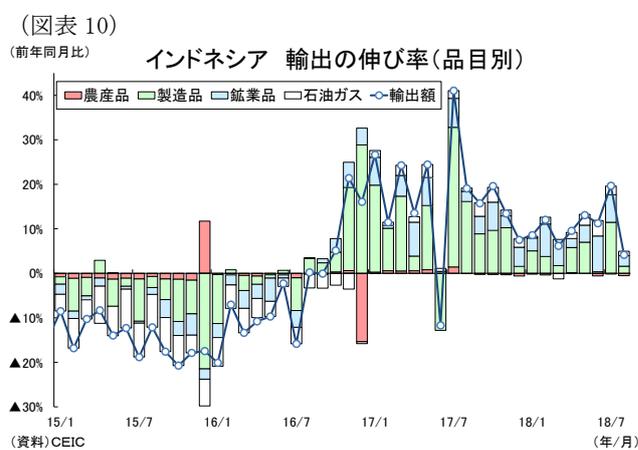
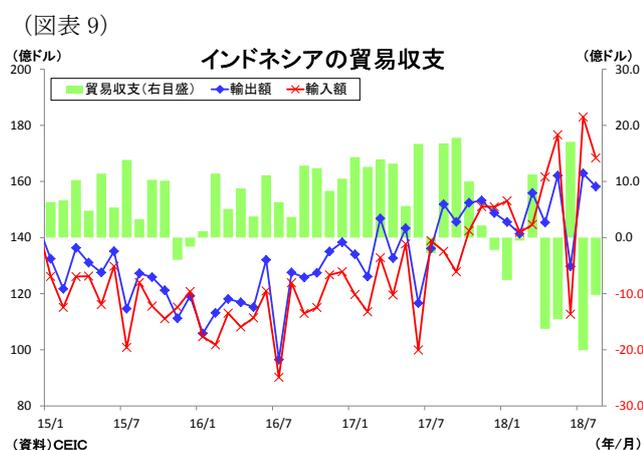
マレーシアの18年8月の輸出額は前年同月比4.4%増と、前月の同15.9%増から低下した。輸出の伸び率は前月まで好調に推移していたが、8月は主力輸出品の電気・電子製品の鈍化が響いて14ヵ月ぶりの一桁成長となった。一方、輸入額は前年同月比16.4%増と、前月の同16.8%増から小幅に低下した結果、貿易収支は3.9億ドルの黒字と、前月から16.6億ドル減少した（図表7）。

輸出を品目別に見ると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器は同6.5%増（前月：同27.8%増）となり、主力の電気・電子製品（同2.3%増）を中心に大きく鈍化した（図表8）。一方、鉱物性燃料は同6.7%増と、急速に鈍化した前月の同1.7%増から持ち直した。天然ガス（同32.4%減）が低迷する一方、原油（同78.7%増）が好調を維持、石油製品（同10.3%増）もプラスに転じた。このほか、前月に続いて化学製品（同13.9%増）が高い伸び、動植物性油脂（同22.3%減）が大幅マイナスとなった。



インドネシアの18年8月の輸出額は前年同月比4.1%増（前月：同19.7%増）と大きく低下した。輸出は主力のパーム油とゴム製品が落ち込むなかでも石油ガス需要の増加を背景に堅調な伸びを続けてきたが、8月は石炭輸出が伸び悩んで4ヵ月ぶりの一桁成長まで鈍化した。また輸入額も前年同月比8.9%増（前月：同15.3%増）と低下した結果、貿易収支は10.2億ドルの赤字と、前月から9.9億ドル赤字が縮小した（図表9）。

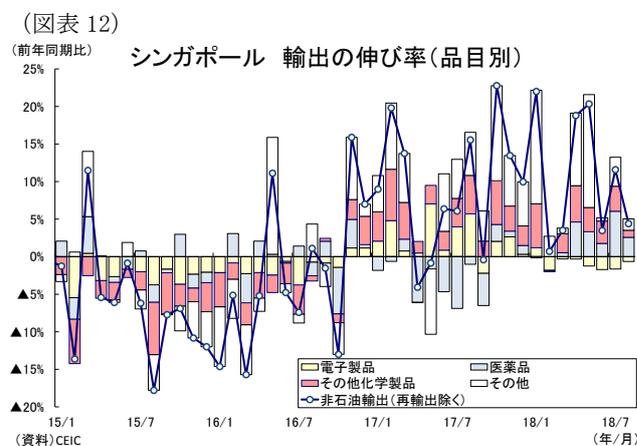
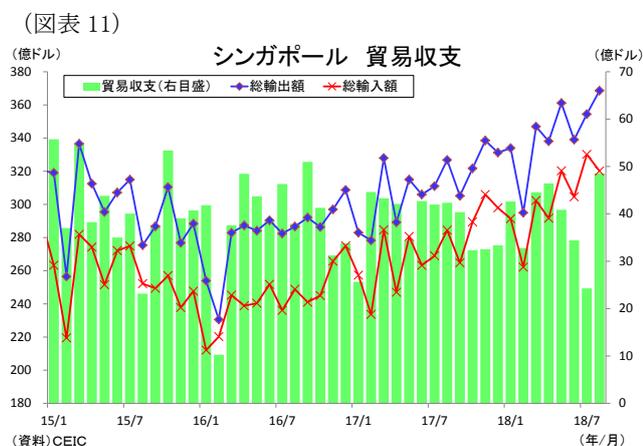
輸出を品目別に見ると、全体の9割を占める非石油ガスは同3.4%増（前月：同19.4%増）と大き



く低下した一方、石油ガスは同12.2%増（前月：同22.9%増）と好調を維持した。非石油ガスの内訳を見ると、まず輸出全体の7割を占める製造品が同2.1%増（前月：同15.2%増）と低下した。主力の製造品のうち、自動車（同10.3%増）と電気機械（同5.8%増）は拡大する一方、ゴム製品（同13.2%減）や動植物性油脂（同11.3%減）、機械類（同5.3%減）は減少傾向が続いた。また農産品は同20.8%減（前月：同6.6%減）と更に落ち込んだ一方、鉱業品は同18.0%増（前月：同44.7%増）と、鉱石、スラグ及び灰（同31.4%増）を中心に引き続き二桁増となった。

シンガポールの18年8月の輸出額（石油と再輸出除く）は前年同月比4.4%増（前月：同11.6%増）と低下した。輸出の伸び率は主力の電子製品が低調で鈍化してきているが、非電子製品の拡大を支えに増加傾向は続いている。なお、総輸出額は前年同月比12.8%増（前月：同14.0%増）、総輸入額は同12.5%増（前月：同22.8%増）となり、それぞれ低下した。結果として、貿易収支は48.5億ドルの黒字となり、前月から24.3億ドル増加した（図表11）。

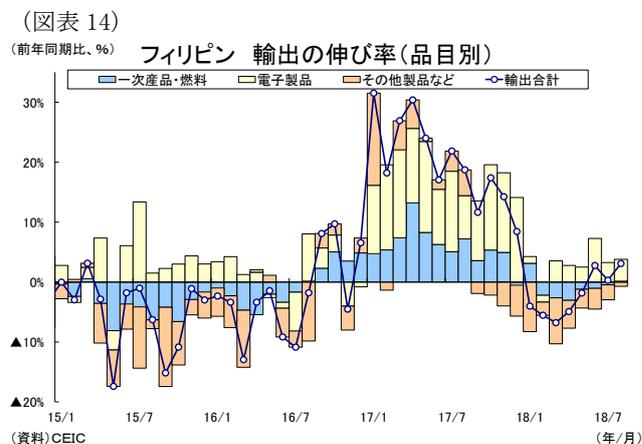
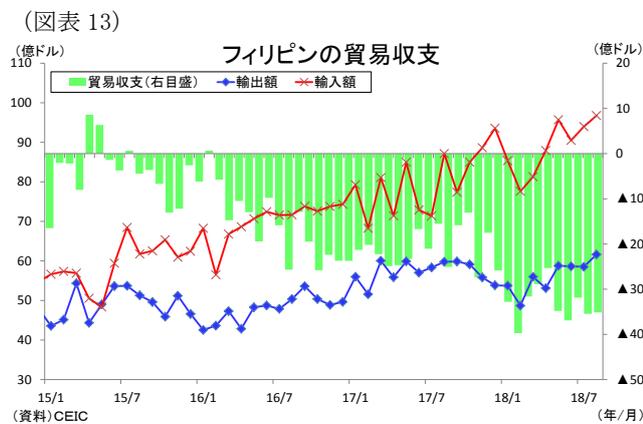
輸出（石油と再輸出除く）を品目別に見ると、まず全体の約3割を占める電子製品は同2.1%減（前月：同5.3%減）と7ヵ月連続のマイナスとなった（図表12）。電子製品の内訳を見ると、通信機器（同14.7%増）とPC（同11.1%増）が大幅に増加したが、主力のIC（同1.6%減）とPC部品（同5.4%減）、ダイオード・トランジスタ（同29.2%減）が低迷した。また電子製品と並び全体の約3割を占める化学は同12.8%増（前月：同39.1%増）と増勢が鈍化したものの、高水準を維持した。化学製品の内訳を見ると、医薬品が同32.6%増（前月：同110.4%増）と好調に推移する一方、石油化学製品が同2.8%増（前月：同8.6%増）と工場のメンテナンスの影響で伸び悩んだ。



フィリピンの18年8月の輸出額は前年同月比3.1%増と、前月（同0.3%増）から上昇した。輸出の伸び率は年明けからマイナス圏で推移した後、足元では主力の電子製品を中心にプラスに転じたが、依然として低調に推移している。一方、輸入額は前年同月比11.0%増（前月：同31.6%増）と鈍化した結果、貿易収支は35.1億ドルの赤字となり、前月から0.3億ドル赤字が縮小した（図表13）。

輸出シェア上位10品目を見ると、まず輸出全体の約5割を占める電子製品は同7.0%増（前月：同6.1%増）と上昇した（図表14）。電子製品の内訳を見ると、電子データ処理機（同3.4%増）が鈍化する一方、主力の半導体デバイス（同7.7%増）が上昇した。その他9品目は総じて増加した品目

が多かった。精錬銅（同79.0%増）やバナナ（同46.9%増）、その他鉱物製品（同21.8%増）、その他製造品（同6.4%増）、電子機械・部品（同5.4%増）が増加する一方、イグニッション・ワイヤーセット（同22.9%減）や化学（同8.2%増）、金属部品（同4.8%減）、機械・輸送用機器（同3.5%減）が減少した。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。